

キャンパスライフ サークル紹介

体育系

ピタツと着地ぎゅつと仲間

体操競技部

杉井 爽花

(生活創造専修家庭科分野四年)

こんにちは。埼玉大学体操競技部です。私たちは、初心者から経験者まで楽しく取り組む「全力青春部」でありながら、全国大会にも出場する「全力熱血部」です。体操競技部では、男子はゆか・あん馬・つり輪・跳馬・平行棒・鉄棒の六種目、女子は跳馬・段違い平行棒・平均台・ゆかの四種目があり、すべての種目の練習ができる環境を整えています。

現在は、一年生から大学院生までの約二十名で活動しており、週に四回、埼玉大学第一体育館を主な練習場所として、学年や年齢の壁を越えて、仲良く・明るく・温かな雰囲気の中で練習しています。先輩・後輩の間でも自然に声を掛け合い、互いに支え合える関係が、技への挑戦や成長をそつと後押ししてくれています。こうした一体感が、体操競技部の大きな魅力になっています。

私たち体操競技部は、年間を通して様々な大会に出場しています。四月の「東日本学生体操競技グループ選手権大会」に始まり、五月の「東日本学生体操競技選手権大会」、八月の「全日本学生体操競技選手権大会」や「関東甲信越大学体育大会」そして十一月の「霜月杯」と、大会

を通して日々の練習の成果を発揮できる機会が年間を通してあります。大会では、初心者から経験者まで、互いに応援し励まし合いながら全力で演技に取り組む姿や、応援する姿が印象的です。

イベントも豊富で、部内の交流もとても盛んです。年末には体育館や器具の大掃除を行ったあとに忘年会を開き、昨年度は、卒業される四年生へ感謝の気持ちを伝える会も行いました。夏には旅行やドライブ企画などもあり、部員同士で楽しい時間を共有しています。こうした行事を通して、先輩・後輩の垣根を越えて絆を深められることも、体操競技部の大きな魅力の一つです。

このように、多くの大会に出場し、整った環境で日々の練習に取り組むことができているのは、これまで部を支えてくださった先輩方のご活躍と温かいご支援のおかげだと感じています。

これからも埼玉大学体操競技部らしく、元氣一杯に活動を続けてまいります。引き続きご支援とご声援のほど、よろしくお願いいたします。



第74回関東甲信越大学体育大会の集合写真

仲間と共に繋ぐ

体育会男子バレーボール部

野呂 壮吾

(身体文化専修体育分野三年)

私たち埼玉大学体育会男子バレーボール部は、週四日(リーグ戦期間中は週五日)、埼玉大学の総合体育館で活動しています。令和七年六月に四年生が引退し、現在の部員数は、三年生が四名、二年生が三名、一年生が一名の計八名です。年間を通して北関東五大学大会、関東甲信越大学体育大会、関東大学リーグ戦大会の三つの大会があります。私たちは関東大学バレーボールリーグ四部に所属しており、九月下旬から行われる関東大学リーグ戦大会では、三部昇格を目標に日々練習に励んでいます。

私たちがこれらの大会に出場し、バレーボールに取り組むことができて背景には、OBやOGの方々の尽力と多くの方々からのご支援があり、日頃から大変感謝しています。

体育会男子バレーボール部の特色として、他学部・他学年の学生と関われること、人数が少ない分、効率的な練習を行うことが挙げられます。また高等学校では監督が

行っていた練習メニューを考えたり、練習試合を組んだりする業務は学生が行います。さらには、試合で得た反省点を持ち帰り、学生同士で練習メニューを考えるなど、主体的に部活動に取り組んでいます。サークルなどに比べ、活動量が多いものの、自分たちの目標に向かって互いに切磋琢磨していく時間は他の何物にも代え難いです。私たち体育会男子バレーボール部は、「繋ぐ」を常に意識しています。これはバレーボールにおいてだけではなく、四年生の意思を後輩に引き継ぎ、埼玉大学のよさを伝えていくという意味でもあります。これからも目標に向かって精進してまいります。今後ともご支援・ご声援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



関東大学バレーボール大会の集合写真

キャンパスライフ サークル紹介

文化系

和楽器の音色に心を寄せて

邦楽部琴吹会

村田 七星
(乳幼児教育コース三年)

こんにちは。埼玉大学邦楽部琴吹会(ことぶきかい)と申します。一九七〇年に三曲同好会として創部された、埼玉大学唯一の邦楽を行う部活動です。箏、三絃、尺八の演奏を目的とし、週に二回練習に励んでいます。また月に一、二回、外部講師にお稽古をつけていただいております。

主な活動は、新入部員のお披露目となる「七夕演奏会」、むつめ祭での「和楽器コンサート」、そして一年間の集大成としての「定期演奏会」です。その他、外部からご依頼をいただき、演奏を行っています。

和楽器に対して、難しそう、古典的等、近寄りがたい印象を持つ方も少なくないかと思います。しかし、毎年、新入部員の約半数は、大学で初めて和楽器に触れ、お稽古や練習を通して演奏の技術を身に付けていきます。また、演奏する曲は、古典曲のみでなく、複雑なリズムを奏でる現代曲や、懐メロ、アニソンなどもあります。聞きなじみのある曲でも、普段とは

異なる雰囲気を感じることができません。

和楽器の合奏には、指揮者がいません。曲の開始や終了の合図は、前方の演奏者の体の動きのみです。演奏中のテンポの加速や減速、音色などは、他の人の音を聞きながら調整しています。また、楽器ごとに難しいポイントが異なることも多く、皆で意見を出し合いながら、日々練習を重ねています。

これからも、より多くの方に、和楽器の音色に親しみをもち、楽しんでいただけるよう、練習に励んでまいります。今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



昨年度の定期演奏会の様子

話して、聞いて、考えて

「楽しい」を創り出す

放送研究会

小林 朋生
(特別支援教育コース三年)

埼玉大学放送研究会です。放送研究会は十六名で活動しています。皆さん、突然ですが一つ質問です。放送研究会と聞くと、どのような活動を思い浮かべますか。校内放送、映像制作、レコーディング：など様々だと思います。今日は埼玉大学放送研究会について紹介させていただきます。

放送研究会では、主にラジオの収録、講演会の司会などを行っています。ラジオの収録では、実際の放送でトークを行うパーソナリティ、音響効果を操作するミキサー、内容を企画するディレクターに分かれて一回の放送を作り上げます。どの役割もラジオ作りにおいてかけがえのない存在です。ラジオを聞く人、そして自分たち自身が楽しめるようにラジオを作っています。また、ラジオとはジャンルが異なる、講演会などの司会業にも力を入れています。二〇二五年の四月には放送研究会のメンバーが、大学の入学式の司会を行いました。

放送研究会の魅力は、先輩後輩関係なくフランクに話をしたり聞いたりすることができると考えます。普段の雑談だけで、ラジオを一本収録することが出来ます。ラジオ収録時以外でも笑いが途切れません。自分たちが心の底から楽しみながら活動に取り組んでいる部分が、放送研究会の大きな魅力だと考えます。

最後になりますが、放送研究会は今後も仲良く、楽しく、時には問題に対して意見を出し合い、お互いを高め合いながら活動が続けていきます。大学生ならではの視点で、少しでも多くの人を笑顔にできるラジオ作りを行いたいです。今回のサークル紹介を読まれた皆さんが、ちょっとした時間にラジオを聞いてみようと思ってくだされば、とても嬉しく思います。今後とも、ご声援のほどよろしくお願いいたします。



ラジオを収録している様子